

主日礼拝

2020年11月8日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主に感謝をささげて御名を呼べ。
 諸国の民に御業を示せ。
 主に向かって歌い、ほめ歌をうたい
 驚くべき御業をことごとく歌え。
 聖なる御名を誇りとせよ。
 主を求め人よ、心に喜びを抱き
 主を、主の御力を尋ね求め
 常に御顔を求めよ。
 主の成し遂げられた驚くべき御業と奇跡を
 主の口から出る裁きを心に留めよ。
 主の僕アブラハムの子孫よ
 ヤコブの子ら、主に選ばれた人々よ。」(詩編105:1~6)

頌栄 26「グロリア」

グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に
 グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

リタニー『神さまの種』(「教師の友」11月)

司式者：小さな種のなかに、いのちがあります。
 会衆：そのいのちは、小さな芽をだし、成長し、
 たくさんの実りをもたらします。
 一同：小さな種にも、神さまのご計画があります。
 司式者：私たちの小さな体にも、
 会衆：神さまのみことばの種がまかれています。
 一同：この種が、どんどん大きくなりますように。
 司式者：私たちに示してくださった、神さまのご計画。
 会衆：神さまからの、実りと恵みを分かちあって、
 一同：一緒に生きていく私たちにしてください。
 アーメン。

祈祷

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
 ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
 み国を来らせたまえ。
 みこころの天になるごとく
 地にもなさせたまえ。
 我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
 我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
 我らの罪をもゆるしたまえ。
 我らをこころみにあわせず、
 悪より救い出されたまえ。
 国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
 なればなり。
 アーメン。

聖書 創世記 13:1~18 旧約(新共同訳) P16~P17

アブラムは、妻と共に、すべての持ち物を携え、エジプトを出て再びネゲブ地方へ上った。ロトも一緒であった。アブラムは非常に多くの家畜や金銀を持っていた。ネゲブ地方から更に、ベテルに向かって旅を続け、ベテルとアイとの間の、以前に天幕を張った所まで来た。そこは、彼が最初に祭壇を築いて、主の御名を呼んだ場所であった。アブラムと共に旅をしていたロトもまた、羊や牛の群れを飼い、たくさんの天幕を持っていた。その土地は、彼らが一緒に住むには十分ではなかった。彼らの財産が多すぎたから、一緒に住むことができなかったのである。アブラムの家畜を飼う者たちと、ロトの家畜を飼う者たちとの間に争いが起きた。そのころ、その地方にはカナン人もペリジ人も住んでいた。アブラムはロトに言った。「わたしたちは親類どうした。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。あなたの前には幾らでも土地があるのだから、ここで別れようではないか。あなたが左に行くなら、わたしは右に行こう。あなたが右に行くなら、わたしは左に行こう。」ロトが目を見て眺めると、ヨルダン川流域の低地一帯は、主がソドムとゴモラを滅ぼす前であったので、ツォアルに至るまで、主の園のように、エジプトの国のように、見渡すかぎりよく潤っていた。ロトはヨルダン川流域の低地一帯を選んで、東へ移って行った。こうして彼らは、左右に別れた。アブラムはカナン地方に住み、ロトは低地の町々に住んだが、彼はソドムまで天幕を移した。ソドムの住民は邪悪で、主に対して多くの罪を犯していた。主は、ロトが別れて行った後、アブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。見えるかぎりの土地をすべて、わたしは永久にあなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫を大地の

砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。さあ、この土地を縦横に歩き回るがよい。わたしはそれをあなたに与えるから。」

アブラムは天幕を移し、ヘブロンにあるマムシの櫛の木のところに来て住み、そこに主のために祭壇を築いた。

賛美 184 「アブラハム、アブラハム」

(はじめと各節のおわりに歌う)

ア ブラハム ア ブラハム う まれたこきょうをは なれて

ア ブラハム ア ブラハム ち ちのいえを は なれて

1. わたし が しめした とちに ゆき なさい
2. わたし は あなたを しゆくして みちびく
3. みちびか れるま ま しめさ れたみちを

わたしの たみの ちちとなる だ ろう
おとなど こども すべてのひとを
なげかず すすみ ためらわず ゆ け

説教 「神に選ばれるということ」

賛美 394 「信仰うけつぎ」

Faith of our fathers!
詞：Frederick W. Faber, 1814-1863

ST. CATHERINE
曲：Henri F. Hemy, 1818-1888

1 しんこう - うけ - つぎ、 ころろみに
2 しんじて - いの - れば せかい は 主
3 てきを あ - いさ - れた 主 イスに し

た - え て、 いま、わ が - こ - ころに
に - きし、 しんりは - われ - らに
た - が い、 あいの は - た - ら - きで

(くりかえし)
よろこび あふ - れる。
主をのべつ た - えよう。
主をのべつ た - えよう。 しんこうう

けつぎ、 きょうも すすみ ゆこう。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 塩冶 みはる
説教 向井 希夫牧師
奏楽 高橋 孝子